

国立大学法人

News Letter Vol.4 2006.11.01

東京農工大学 ニュースレター

秋号

巻頭特集 OB・OGに聞く

特集 2006年春の進路状況 研究最前線 クローズアップ農工生 大学からのお知らせ

地球をまわそう。農工大



・OGに聞く

美しく豊かな国土を 未来の人々に伝えていくために…… 山と森林を守る仕事をしています。

荒廃した足尾の山に 緑を取り戻すために

学部卒業後、大学院に進学したのですが、修士1年の時に試しに受験した公務員試験に合格。入省後は、まず木材の輸出入関係の業務に携わった後、北海道の営林署などで通算7年間を過ごしました。農林水産省経済局国際部で、WTO関連の業務を担当したこともあり、

今年7月までは、群馬県前橋市にある関東森林管理局企画調整室で室長を務めていました。この職場で思い出深いのは、足尾国有林治山事業着工50周年記念の広報キャンペーンを手がけたことです。存じのように北関東にある足尾は、かつて日本有数の銅山として知られ、わが国における公害問題の原点ともいえる鉱毒事件の舞台となった場所です。この地区にある1670ヘクタールにおよぶ国有林は、長年、銅の製錬過程で排出される亜硫酸ガスの影響で緑の回復力が失われ、山肌が露出した無残な姿をさらしていました。

そんな足尾に国有林治山事業がスタートしたのは1956年のこと。亜硫酸ガスを回収する技術の確立により、国家プロジェクトによる本格的な緑化が始まりました。以来、地元の林業協同組合の方々のご協力を得て、(土を作り、草木の種を蒔き、木を植える)という地道な作業が続けられ、50年を経た現在、およそ50パーセントの緑が復活しました。しかし、まだ50パーセントには、人間の生涯以上の長い時間が必要なのです。そこで私たちは、今後も続く国有林治山事業を納税者である国民の方々に広く知っていただく機会として、50周年を記念したさまざまなシン

ポジウムやイベントを企画・開催しました。幸いにもこれらは多くの方々に好評を持って迎えられ、私自身、大きな充実感を得ることができた仕事となりました。

自然の脅威を痛感した 新潟県中越地震の経験

関東森林管理局時代には、あの新潟県中越地震に遭遇しました。1都10県をカバーする関東森林管理局の管轄エリアです。災害対策本部の立ち上げに始まり、被害状況の把握、県の要請を受けて治山技術者の現地派遣など、ほぼ休みなしで働き続け、1週間は家に戻る暇もないほどの忙しさ……。中越地震では、阪神・淡路大震災の教訓により行政の対応も素早く行われ、また救援物資、ボランティアも早い段階から手当が進みました。その反面、山間部を中心とした被害ということで、新たな課題も浮かび上がりました。できれば私自身が崖崩れなどの実態を、自分の目で確かめたかったです。立场上、そうもいきません。そんな時、政府の現地災害対策本部に駐在し被害状況を本省へ伝達するため、東京の本庁から一人の職員が派遣されてきました。それが偶然にも農工大の同じ研究室の後輩だったのです。「こちらで十分なバックアップするから、安心して行って来い」と彼を送り出し、林産学科出身コンビで連携しながら、情報収集と対策を進めていきました。

私がこの地震で痛感したのは、天災＝自然の力は人智を越えた強大なものであり、避けることはできないと言ったことでした……。しかし、だからといって私たちは、このような試練の中から多くのことを学び、確実に次に生かさねばならないと思えます。

美しく豊かな国土を未来へつなぐ 森林の担い手を育てるために

今年8月より、東京・霞ヶ関にある林政部経営課林業労働対策室に勤務しています。ここでは次代の林業の担い手の育成・確保を担当することになりました。林業就業者は高齢化が進み、後継者不足が深刻です。国勢調査によると、昭和50年代に18万人だった林業就業者は、平成12年に6万7千人、昨年の調査では5万2千人まで激減しています。スキヤビノキなどの人工林は、間伐などの手入れを適切に行わないと荒れ放題になってしまいますし、里山の天然林なども、人の手が入ることで活力を取り戻します。次代を担う林業就業者の育成は急務といえるでしょう。また、CO2の吸収源である森林は、地球温暖化対策としても重要です。そこで、「自然の中で気持ちよく働きたい」と考える方々に、林業に必要な技術・技能の習得から、森林組合などの林業事業体への本格就業までを、国と自治体でバックアップするのが「緑の雇用」事業です。日本の国土の3分の2以上を占める美しく豊かな森林を、100年後の人々にも届けたい……。そんな思いを込めて、この仕事に取り組んでいきたいと思っています。

足尾国有林治山事業の意義やその経緯などを、写真を中心にわかりやすくまとめたパンフレット「よみがえる緑」。下に見えるのは、「緑の雇用」事業のパンフレット。



石原 敬史

農林水産省
林野庁 林政部経営課 林業労働対策室 課長補佐

岡山県出身。
1991年東京農工大学農学部林産学科卒業。農林水産省入省後、木材流通課、林野庁北海道営林局、経済局国際部、林野庁関東森林管理局等で、主に企画畑を歩む。2006年8月より現職。
「大学時代は、それほど勉強熱心な学生ではありませんでしたが、やはり演習林での実習は楽しかったですね。山や森林が好きという気持ちは、今の仕事でも私のベースになっています。趣味も職場の仲間との山歩きです」



大学、企業、再び大学…… デジタル革命の最中で 充実した研究生生活を送ってきました。

たった10年あまりで
最新技術が常識になる

20世紀末のデジタル革命は、私たちの生活や仕事、そしてコミュニケーションのあり方を大きく変えました。

私の学生時代は、まさにコンピュータ&ネットワーク技術の勃興期。所属していた計算機システム工学研究室では、OS、コンパイラ、システムソフトウェアの研究をメインに、次世代の組み込みシステムのアーキテクチャや基本ソフトウェア(OS)、携帯・モバイル端末向けのシステム開発など、バラエティあふれる研究テーマを扱っていました。さらに、研究室や学科の壁を越えてハードウェア、人工知能、ロボットなど、新しいテクノロジーの未来をみんなでワイワイと語り合う活気にあふれた雰囲気があり、毎日、大学キャンパスに行くのが何よりも楽しかったです。

そんな時代に私たちが取り組んでいた研究テーマの多くが、およそ10年を経た現在、「ごく一般的な技術になっている」とは、今さらながら驚いてしまいます。学部時代の私はプリントサーバやコンピュータ上で印刷の組版技術を実現するシステムを研究していました。これらは今と違って「常識」ともいえる技術なのですが、当時はまだ過渡期にある技術でした。また、修士課程時代には、テキスト内に記載したプログラムをテキスト表示時に実行するため仕組みを研究していましたが、これは現在では多くのウェブサイトで使われているJava、あるいはCGIに相当するものなのです。

そして日立製作所中央研究所に勤務していた90年代は、デジタル革命が一気に進展していった時代です。私たちシステム系の研究員は、毎年のよ

うに登場する新しいアーキテクチャ(システムの基本設計・構造)を習得しながら、会社が期待する成果を達成しなければなりません。次から次へと新しい仕事に取り組みせてもらい、とても充実していました。目が回るように忙しい日々でした。新たな分野の仕事にチャレンジする際に、学生時代に聞きかじったさまざまな技術分野の技術の話が大いに役立つものです。

次世代プロセスの研究で 博士号取得をめざす

企業の研究員として10年のキャリアを積んだ頃、私は研究者としてさらなるステップアップを図るため、母校で博士号の取得をめざすことを決意しました。2人の子どもの育児や親の介護など、生活の上でもたいへんな時期を迎えていましたが、久しぶりに懐かしい研究室に戻ってみると、どこか心が安らぐ思いがしました。学生時代にお世話になった先生はすでに退官されましたが、同じ研究室の大先輩である並木助教が後を引き継がれており、学生一人ひとりがやりたいことに取り組める自由な研究環境もそのままでした。日立製作所での研究生生活も充実していましたが、やはり、じっくり腰を落ちかけて一つのテーマに取り組める大学の研究環境は素晴らしいですね。

現在の研究テーマは、マルチスレッドプロセス向けの基盤ソフトウェア開発です。プロセス(CPU)とは、基本的な演算処理を行うコンピュータの心臓部であり、頭脳です。これまでプロセスの性能向上はクロック周波数の向上によって図られてきましたが、今後は一つのチップに複数のプロセスが搭載されるチップマルチプロセスなど、チップ上での並列技術が主流となるでしょう。農工

大の後輩たちにもぜひ注目してもらいたい研究领域です。

仕事と研究、そして家庭 すべて大切なモノです

今年の3月に博士号取得後も、大学の特別研究生制度を利用して引き続き並木先生のもとで研究活動が続いています。また、6月からは、日立製作所時代の同僚に誘われ、嘱託の研究員として職場復帰しています。仕事と研究、そして家庭……すべて自分にとって大切なこと。どれもおろそかにしたくはありません。確かに楽ではありませんが、幸い家族もバックアップしてくれ、大学での研究は自宅のコンピュータとEメールでも十分まかなえるため、キャンパスに足を運ぶのは週に1日程度ですんでいます。システム系の研究者の私が言うのも変なのですが、実に便利な時代になりました。コンピュータ&ネットワーク技術の発展は、私たち働く女性にも少なからぬ恩恵を与えてくれたと思います。私自身も、システムソフトウェアの研究・開発活動を通して、より便利で、暮らしやすい社会の実現に少しでも貢献したいですね……「自分が手がけた仕事で、多くの人が幸せになる」。それこそすべての研究者にとつての夢なのですから。



佐藤 未来子

東京農工大学大学院工学府 特別研究生
株式会社日立製作所中央研究所嘱託

東京都出身。

1988年東京農工大学工学部情報工学科卒業。1990年同大学院工学研究科修士課程修了後、株式会社日立製作所で研究・開発業務に従事。2002年同大学院工学研究科博士後期課程へ入学。2006年3月博士号を取得し、現在は特別研究生として研究を継続中。「夜中まで研究室にこもっていたかと思うと、友人たちとスキーやボウリングに繰り出したり……学部時代は、まさに“よく学び、よく遊ぶ”を実践した日々でした」

小金井キャンパス並木研究室にて。「今や多くの企業では産休・育休制度が整っており、日立時代の同期や先輩の女性たちも、子どもができた後も第一線で活躍しています。後輩の女性たちにも、ぜひ社会で頑張ってください」



進路状況

2006年就職内定者報告

自分なりの基準と 早めの対策を

工学部 生命工学科 4年

小林 恭彦

就職活動を開始するにあたって、何をしたいのか、どのような会社で働きたいのか、明確にしておく必要があると思います。仕事の内容、知名度、職場の雰囲気、給料など様々な基準がありますが、大切なポイントは自分の中の基準をしっかり決め、優先順位をつけておくことだと思います。自分の基準を持ちつつ、リクナビや就活本を参考に会社説明会などに参加すれば、早い段階である程度の絞った意義のある活動を行うことができます。

説明会には、リクナビなどが主催する合同説明会と会社が主催する説明会があります。前者では、様々な業界を一度に回ることができ興味のある分野を探ることがができますし、後者ではその会社の雰囲気や特徴をより深く理解することができます。私が志望した製薬業界では早い時期から選考が始まるため、11月中旬から多くの会社説明会がありました。

ここでは企業研究はもちろん、会社の雰囲気や特徴をより深く理解することができ、私が志望した製薬業界では早い時期から選考が始まるため、11月中旬から多くの会社説明会がありました。

になりました。また、大学の就職ガイダンスや学科単位で開かれる会社説明会にもぜひ参加してみると良いと思います。身近で、より詳しく人事の方からお話を聞くことができますし、就職活動の流れを理解できる良い機会だと思っています。

選考の時期になると、エントリーシートという自己PRを書いた書類を会社に提出します。ここでは十分に時間をとって自己PRを練って、書く練習をすることを勧めます。ここで時間をかけておけば文章のまとめ方も上手くなりますし、何よりも最も大切な面接時の自己PRをしっかりと固めておくことができるからです(エントリーシートは、二次選考に使われると共に、面接時の質問の資料にも使われます)。

また、面接でうまく答えられなかった質問などを記録しておくと思いえます。実際に同じような質問を別の会社でされることはよくあることですし、回数を重ねることに面接も馴れてくるので効果的です。

就職活動は長いので、モチベーションの維持が大変です。時には、ゆっくり休み大きく構えて臨めば、きっと良い結果が得られると思います。

学部生の就職活動の流れ

4年	3年	2年	1年
<p>3月 卒業</p> <p>内定</p> <p>採用選考</p> <p>公務員試験</p>	<p>1~2月 エントリーシート</p> <p>5~12月 就職ガイダンス</p> <p>インターンシップ</p> <p>就職ガイドブック配付</p> <p>情報収集 (就職情報サイト、OB・OG訪問)</p> <p>企業調査・研究</p> <p>自己分析チェック (興味や関心、価値観、能力や適性)</p> <p>キャリアアップガイダンス(1~2年次)</p> <p>4月 入学(希望・夢)</p>	<p>4年間の学生生活を構築する (授業・クラブ活動・アルバイト等)</p> <p>キャリアアップガイダンス(1~2年次)</p>	<p>4月 入学(希望・夢)</p>

東京農工大学奨励奨学金制度がスタート!!

本奨学金制度は、博士後期課程(工学府博士後期課程、連合農学研究科又は連合獣医学研究科)への進学を奨励する奨学金です。

学業成績、人物共に優秀である本学大学院(博士前期課程、修士課程及び専門職学位課程)修了・修了予定者で博士後期課程に進学をする学生を対象としています。

本学寄附金から1千万円を財源として、一人20万円、年間50名に給付することとしています。



◀第1回奨励奨学金授与式

就職サポート

就職ガイダンスは、キャリアアップ講演会、女子学生のためのガイダンス、企業等から講師を招いて行う企業説明会や、公務員希望者を対象とした公務員説明会、就職のための模擬面接講座など様々な内容で開催されています。

府中・小金井の両キャンパスには就職相談室が設置され、大学教員OBや企業経験のある相談員(キャリア・アドバイザー)が進路や就職に関する個別相談に応じています。

また、平成17年度から、就職活動に必要な情報をまとめた「就職ガイドブック」を創刊しました。自己分析の仕方や志望動機の書き方など詳細に説明されており、学生に利用されています。



▲キャリアアップ講座

平成17年度(平成18年3月)進路・就職状況について

平成18年3月卒業の学部学生は、左表のとおり男女共に約半数以上が大学院への進学を選択していますが、就職を希望する学生も少なくありません。就職者のほとんどは、バイオ関係、主に官公庁、工学部はメーカーへとい

平成18年3月卒業の学部学生は、薬品、化学、食品、ナノ関連等、4年間修得した知識や技術を十分に発揮できるフィールドで活躍しています。

学部ごとの傾向としては、農学部は研究開発職の即戦力として活躍しています。

また、大学院生は、大手メーカーのう特徴があります。

進路等の状況

平成18年5月1日現在(平成17年度卒業・修了者)

産業分類 (産業とは、各事業体の主たる事業内容)	学 部				学部計	大学院(博士前期・修士課程)					博士前期・修士課程計	大学院(博士後期課程)				博士課程計	合計			
	農学部		工学部			工学教育 博士前期課程		農学教育 修士課程		BASE 博士前期課程		工学教育 博士後期課程		BASE 博士後期課程	連合農学研究科 博士後期課程					
	男	女	男	女		男	女	男	女	男		女	男	女	男			女		
進 学	93	78	359	77	607	23	3	21	8	3	2	60					0	667		
製造業	食品・飲料・たばこ・飼料製造業	8	5	3	1	17	9	2	18	6	3	38	1	1			1	3	58	
	繊維工業・衣類その他の繊維製品製造業		1	1		2	4		4			8						0	10	
	印刷・同関連業		1	3		4	2	6	2		2	12						0	16	
	化学工業・石油石炭製品製造業	4	7	9	7	27	31	12	11	4	8	4	70	3		4		2	1	107
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業			8	1	9	7	1				8	1					1	18	
	一般機械器具製造業			11	1	12	11		3		2	16	1		1			2	30	
	電気・情報通信機械器具製造業			23	1	24	43	6	1		7	1	58	3				3	85	
	電子部品・デバイス製造業			5		5	9	2			3	2	16	1		1		2	23	
	輸送機械器具製造業			6	2	8	15	2			5	22	1					1	31	
	精密機械器具製造業			9	1	10	25	1	2	2	8	2	40	3		1		4	54	
その他の製造業	3	2	1	2	8	3	4	6	3	1	3	20					0	28		
電気・ガス・熱供給・水道業			1	1	2	1				3	1	5			1		1	8		
情報通信業	3	3	33	13	52	36	4	4	4	2	2	52	2	1			1	108		
運輸業			3	1	4	2					1	3	1				1	8		
卸売・小売業	4	6	7	2	19	2	1	3	2			8					0	27		
金融・保険業			1		1						1	1					0	2		
不動産業		1		1	2				1		1	1					0	3		
飲食店・宿泊業	1				1				1		1	1					0	2		
医療・福祉	1		1		2	1	1				1	3	1				1	6		
教育・学習支援事業	学校教育	1	3		1	5			1		1	2	3	1	2		8	4	18	
	その他の教育・学習支援業		5	1		6			4	1		5			1		5	2	8	
複合サービス事業		2	2		4					2	2						0	6		
サービス業	学術・開発研究機関		1			1	2	2	3	3	1	11	2		2	1	6	3	14	
	その他のサービス業	11	17	6	3	37	3		12	7	1	23						0	60	
公務	国家公務	3	2			5		1	3	1		5	1				2	2	5	
	地方公務	10	9	7	1	27	3		2	2	2	9	1			5		6	42	
農業・林業等	2	1			3	1		1	1		3						0	6		
建設業	1		2	2	5	3		1	2	2	1	9					0	14		
上記以外	1	1	3	1	6	7		5	5	1	18	9	3		1		13	37		
就職小計	53	67	146	42	308	220	45	86	45	53	20	469	34	6	13	2	30	12	97	
※その他	23	24	32	7	86	4	2	22	18		2	48	12	3	1		20	22	58	
合計	169	169	537	126	1001	247	50	129	71	56	24	577	46	9	14	2	50	34	155	

※その他については、研究生・専門学校進学・留学等を含む

工学部

富士通
NTTデータ
中外製薬
凸版印刷
旭化成情報システム
三菱電機エンジニアリング
横河電機
ホンダ
リクルートスタッフィング
地方公務員 ……等

農学部

ベネッセコーポレーション
農林水産省
経済産業省
国土交通省
山崎製パン
大塚製薬
中外製薬
味の素
大正製薬
地方公務員 ……等

主な就職先

農学教育部

NEC
キリンビール
明治製薬
森永製薬
味の素
カゴメ
エーザイ
P&G
鹿島
凸版印刷 ……等

工学教育部

日立製作所
ソニー
松下電器産業
キヤノン
トヨタ
日産
ホンダ
キリンビール
中外製薬
エーザイ ……等

生物システム応用科学

日立製作所
旭硝子
キヤノン
トヨタ
スズキ
ハウス食品
ライオン
エーザイ
全日本空輸
東京電力 ……等

平成18年度国家公務員1種合格者数(理工・農学)

順位	大学名	合格者
1	東京大学	224
2	京都大学	119
3	北海道大学	48
4	九州大学	45
5	東京工業大学	41
6	早稲田大学	27
7	大阪大学	27
8	東北大学	25
9	名古屋大学	25
10	慶應義塾大学	20
11	東京農工大学	18

工学府 工学部 電気電子工学科



**自然エネルギーから
金融工学までをカバーし
自由化時代の電力システムを提案**

長坂 研 助教授

本研究室では、ニューラルネットワークや遺伝アルゴリズムといった最先端のインテリジェント工学を駆使して、電力ネットワーク全体(発電・送電・配電)に関わるさまざまな問題を知的に解決する多様な研究に取り組んでいます。

得意分野のつばは、ニューラルネットワークに基づく「予測」の研究です。たとえば、風力などの自然エネルギーを有効利用するためには、風速や気温などの気象予測や長期・短期の電力需要予測のデータが重要な役割を果たします。電力需要・気象予測(風速・気温)の分野では、本研究室はすでに世界トップレベルの予測精度を実現していますが、さらなる予測精度の向上を目指し、研究を続けています。

もちろん自然エネルギーを利用した発

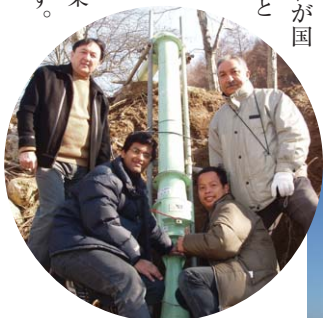
電そのものの研究にも取り組んでいます。風力発電のための風車の最適配置の研究もその一つで、小金井キャンパス5号館の屋上には研究のための太陽光および小型風車を設置しています。また、農工大の21世紀COEプロジェクト「新エネルギー・物質代謝と生存科学の構築」の一環として、山梨県北杜市黒森地区(旧須玉町)において、マイクロ水力発電プラントの試験プロジェクトを進めています。今年度内には風力発電の試験設備も設置され、特定地域内で複数の自然エネルギーによる分散型電源をネットワーク化し、効率よく安定的に電力エネルギーを供給する「マイクログリッド」導入の試験プロジェクトも始動します。

近年、規制緩和の流れの中で、わが国でも電力自由化への動きが注目されています。自由化された電力業界が直面する信頼性や安全性の問題、また、価格の急激な上昇のリスクヘッジなども、長坂研究室の大きな研究テーマです。価格上昇のリスクヘッジの研究については、前述した需要気象、価格などの予測技術をベースに、金融工学の専門家の力を借りて、オプション取引の可能性などを試みています。

電力自由化によって料金体系やサービスの多様化などが進むと、新しい需要と新ビジネスが生まれ、わが国の経済を活性化させること

でしょう。私たちは、電力システムにかかわる幅広い研究活動を通して、わが国のあるべき電力システムのあり方をトータルに提案

していきたく考えています。



(上) 黒森地区に導入したマイクロ水力発電プラント。長坂助教授と研究室の学生が土木工事を行った。
(右) 工学部5号館屋上に設置した小型風車。



連合農学研究所
農学部 農学部 応用生物科学科



**溶液中の標的化学物质を
効率的かつスピーディーに
分離できる画期的な新技術を開発**

千葉 一裕 教授

医薬品原料など、私たちの生活に欠かせない生理活性物質は、さまざまな化合物の合成・分離技術によって生産されています。化学物質というのは、混ぜるのは簡単ですが、分離するのはきわめて困難です。このことは砂糖と塩が溶けた水から砂糖だけを取り出すことをイメージしていただくと、わかりやすいかもしれません。そして、従来の化学物質合成・分離技術では、手間とコストがかかる上、反応に時間がかかるものも多く、さらに化学反応に使われる一部の溶媒の人体への影響、あるいは環境負荷などの問題点も指摘されていました。

生理活性物質の探索や合成を主な研究テーマとする私の研究室では、標的とする物質を単一・スピーディー・安全に分離できる新技術を探求してきました。

そして5年前、「相溶性二相溶媒システム」という画期的な方法を開発。この新技術は、わずかな温度変化で二層分離と均一溶解を繰り返す溶媒系の発見により実現したもので、使われる溶媒は材料コストの安いごく一般的で安全性の高い有機溶剤です。システムの原理自体もシンプルそのものですが、たとえば今まで約16時間もかかっていた反応・分離・精製が、5分程度でできるものもあり、大幅な時間短縮を実現しました。しかも、きわめて温和に反応が進むので安全性も確保でき、なおかつ生産のスケールアップも容易など、従来の技術が抱えていた多くの問題点を解決しています。これまでにペプチド、糖鎖などを分離・合成する実験に成功しており、現在は産業化につなげるための農工大発ベンチャーを設立。また、

生産システムのロボット化などに関して関連企業との産学連携研究も活発に展開しています。

「相溶性二相溶媒システム」は、生物の細胞内の分子生産システムに学んだ環境調和型の化学技術です。生物が何十億年もかけて育んできた生体システムには、地球環境保全が大きなテーマである21世紀の社会に貢献する技術のヒントが、まだまだたくさん隠されているはず……現在、私の研究室では「水」を溶媒に使った化学合成・分離システムの開発にも取り組んでおり、生物をお手本に、より生体システムに近い技術開発を志向していきたいと思っています。



(上) 千葉教授が攪拌した液体が入った試験管を、ビーカーの水で冷やすと、ほんの数分間で、透明な層とピンク色の層に分離した。
(右) 院生の実験記録ノート。



ロボット研究会RURは平成6年に学生有志によって創設され、NHK大学ロボコンを始め各種のロボット競技会に出場しています。授業で学んだ専門知識を、実際に手を動かして試行錯誤し、技術を身につけるとともに、チームワークやマネジメントを学ぶ場となっています。

創設当初からNHKのロボコンに出ることを目標としており、NHK大学ロボコン本戦出場は過去7回、その他全国各地で毎年開かれている各種ロボット競技会へ参加し、数々の優秀な成績を上げています。また、研究室からの実験装置製作の請負や、地域のロボット工作教室への協力など幅広い活動をしています。

現在部員数は50名で、機械システム工学科と電気電子工学科の学生がほとんどを占めており、その他に化学系、物理系の人も少なくなります。機械システム工学科から6号館の一室を借りることができ、そこに工作機械や道具、材料、電子部品など必要なものをそろえてロボットの製作にあたっています。

私たちは参加する大会ごとにチームを構成し、リーダー同士の話し合いによって予算や作業スペースの配分が決まります。メンバーは自分が参加したいチームに所属し、目標設定からアイデア出し、ロボットの設計製作にいたるまで、一連の作業をチームで行います。参加する大会は1年を通してあるので、作業部屋はいつも人でいっぱい。特に、大会本番が近づくと徹夜をする人も出はじめ、24時間部屋の電気が消えないこともあります。

数ある競技会の中でもNHKロボコンには最も力を入れています。NHKロボコンには高専部門と大学部門があり、私たち

は大学部門に出場しています。NHK大学ロボコンに出場するためには、まず書類審査を通過し、さらにビデオ選考を通過しなければなりません。今年は51大学が応募し、本戦に出場できたのは私たちを含め18大学でした。

このところ3年連続で本戦出場を果たしながら、惜しいところで敗退を繰り返しており、今年こそはとの思いで満を持して臨んだ6月11日、並み居る強豪大学を抑え、私たちはようやく念願だった優勝を果たすことができました。

NHK大学ロボコンの優勝大学は日本代表としてABUロボコンに出場します。ABUとはAsian-Pacific Broadcasting Union(アジア太平洋放送連合)のことで、ABUロボコンではアジア太平洋放送連合に加盟する国と地域から選ばれた大学の学生が国を代表して戦います。ABUロボコンは2002年から始まり、これまでに東京、バンコク、ソウル、北京と開催地を移し、今年はいくアラルンブルで開催されました。

試合は予選リーグと決勝トーナメントからなります。私たちは予選リーグを危なげなく勝ち抜けたものの、決勝トーナメントで今回3度目の優勝を果たした強豪ベトナムに敗れ、ベスト8という結果に終わりました。しかし、優れたアイデアが評価され、ベストアイデア賞をいただきました。

今回ABUロボコンでは思い通りの結果を得られませんでした。クアラルンプールで見えてきたことは、次につながる貴重な経験となりました。これを大きな糧としてこれからもがんばっていききたいと思います。

クローズアップ農工生 ロボット研究会

「ABUアジア太平洋ロボコン」に 日本代表として出場

工学部機械システム工学科4年 ロボット研究会長 北光一



HOT NEWS

文部科学省科学技術振興調整費に 本学から二課題が採択

【若手人材育成拠点の設置と人事制度改革】
(採択プログラム：若手研究者の自立的な研究環境整備促進)

若手研究者が自立的な研究に一定期間集中できる特区として独立した拠点を大学院共生科学技術研究院に設置し、テニユア・トラック制度を中心とする人事制度を新設して、若手が自立的に独自の研究を遂行できる環境を提供し、優れた研究成果を挙げられるよう取り組みます。

【理系女性のエンパワーメントプログラム】
(採択プログラム：女性研究者支援モデル育成)

女性キャリア支援・開発センターを新設し、コーディネーターや研究支援員などのスタッフを配置し、女子学生が女性研究者に育ち、若手女性研究者が出産・育児・介護に遮られずに継続的に研究することを可能とする全学的取り組みを行います。

本学名誉教授 遠藤 章氏が 「日本国際賞」を受賞

血中コレステロール値を下げる画期的な医薬品である「スタチン」の発見と開発により、科学技術において独創的・飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められた人に贈られる日本国際賞を今年受賞されました。

(遠藤名誉教授：昭和54年から平成9年まで本学農学部農芸化学科教授)

大学からのお知らせ

学園祭の時期に合わせて、府中及び小金井キャンパスでは様々な企画が開催されます。普段は入れない大学の施設・研究室なども開放され、見所満載です。父母の皆さまのご来校をお待ちしています。

第48回東京農工大学学園祭

模擬店やステージなど盛り沢山のイベントで、学生達の熱気に溢れています。

- 日時 11月10日(金)～12日(日)
- 会場 府中キャンパス(テーマ「華」)
野菜市、植木市、模擬店等
<http://www.tuat.ac.jp/%7Enobu-fes/>
- 小金井キャンパス(テーマ「農工風味」)
お笑いライブ、ダンスコンテスト、クイズ大会等
<http://noko-fes.main.jp/>



●家計急変の場合の奨学金について

日本学生支援機構奨学金では、毎年4月に募集する定期採用のほか、失業、破産、死亡、台風等の災害などで家計が急変した学生に対して随時募集を受け付ける緊急採用制度があります。受給を希望される方は、学生が所属する「学生サポートセンター」にご相談ください。

●各問合せ窓口

修学・学生生活の相談等は、クラス担当委員・学生生活委員等の先生が対応します。次の窓口にお問い合わせください。

お問合せ内容	問合せ窓口	電話番号等
○修学に関する質問・相談 履修、成績、卒業、休学、退学 等	府中地区及び小金井地区 学生サポートセンター-教務係	農学部 042-367-5662 E-mail a-kyomu2@cc.tuat.ac.jp 工学部 042-388-7010 E-mail tkkyomu1@cc.tuat.ac.jp
○学生生活に関する質問・相談 就職、奨学金、授業料免除、 災害傷害保険、ハラスメント 等	府中地区及び小金井地区 学生サポートセンター-学生生活係	農学部 042-367-5540 E-mail a-gaksei@cc.tuat.ac.jp 工学部 042-388-7011 E-mail tkkousei@cc.tuat.ac.jp
○健康相談・精神保健相談 等	保健管理センター	府中地区 042-367-5548 小金井地区 042-388-7171

第12回東京農工大学科学技術展

本学で行われている研究を楽しく紹介します。

- 日時 11月10日(金)午後～12日(日)
- 会場 府中キャンパス、
小金井キャンパス
(両キャンパス間をバス
運行予定)
<http://www.tuat.ac.jp/~kagiten/>



第67回繊維博物館特別展「進化するスポーツウエア」

当日は、常設展や浮世絵展示室等もご覧いただけます。

- 日時 11月8日(水)～12日(日)
- 会場 小金井キャンパス 繊維博物館
<http://www.tuat.ac.jp/%7Emuseum/>

メールマガジン 登録受付中

大学から毎月1回、学内ニュースや様々なお知らせなどをお届けします。皆さまのご登録をお待ちしております。

登録方法 <http://www.tuat.ac.jp/social/mail/index.html>

パソコンのアドレスへ配信希望の方

下記URL(登録サイト)からお申し込みください。

URL → <https://mdh.fm/e?kB003BH4yw>

携帯電話のアドレスへ配信希望の方

1. 下記メールアドレスに空メール(本文・タイトルを記入しない)を送信してください。
 2. 自動的に携帯用登録URLが返信されますので、そちらからお申し込みください。
- 空メール用アドレス → tat@am.dm

農工あらがると

「アップルくん」は、地域の子どもたちや障害者の方たちとのふれあい活動に活躍中の可愛いミニホースです。本名はクイックシルバー・アップルサイダー、体高60cm体重90kgの雄アメリカンミニチュアホースで、本学獣医学科出身の遺伝学者大野乾博士の愛馬として11年間カリフォルニアで育ち、博士の他界後、博士が主将を務めた馬術部に寄贈されました。平成15年に来日し、今では英語と日本語が理解できます。「ミニホースの会」の学生たちに、散歩、馬房掃除等の世話をしてもらい、尾花ちゃんというガールフレンドも出来ました。学園祭では、「アップルくん」が馬車を牽いてお待ちしています。



ガールフレンドの尾花ちゃん



ミニホース
「アップルくん」

住所変更をされたご父母の方へ

本誌は、平成18年10月現在、大学に登録されている「学生の保証人住所」に郵送しております。住所変更の手続きは、学生本人が所属学部・学府等に出向き、届出を行わなければなりません。まだ住所変更を届けていない方は、お子様(保証している学生)に手続きを行うようご指導願います。